

# 地域発 世界へ

入れ歯や差し歯など歯科  
技工物製造のシケン(徳島  
県小松島市)が海外市場の  
開拓に乗り出した。国ごと  
に医療に関する法規制や認  
証制度が異なるため、歯科  
技工物の海外展開は容易で  
はないとされてきた。シケ  
ンは日本市場で培ったコン  
ピューターで義歯をデザイ  
ンする手法を使い、海外拠  
点でデザインを請け負う事

## シケン 時差利用した義歯設計



シケンはフィリピンのセブ島で義歯をデザインする

### 海外展開で24時間体制に

業に力を入れる。の人工歯の製造拠点の一角 といつメリットもある。フィリピンのリゾートに、コンピューター端末が並ぶ。フィリピン人の女性の歯形をもとに、歯科技工士が経験的に製作する職人の領域とされてきた。シケンを経験が浅い技工士で注を受けやすいことに着目し、2018年3月期のグループ売上高に占める海外比率はわずか1%。これを6年後の24年3月期には10%にまで高めるのが目標だ。

会社概要 個人事業が大半の歯科技工を企業化しようと1979年に現社長の父、島文男氏が徳島県小松島市に、前身となる小松島歯研を設立。現在、徳島本社のほか東京、大阪などに計6カ所の技工所があり、400人強の歯科技工士を抱える。グループ売上高は約65億円。

られた患者の歯形データを基に、義歯のデザインをする。米国とフィリピンの時差は約半日。米国の夜中の時間帯に作業ができ、コストだけでなく、納入が速い。シケンが約3年前から取り組んでいるのが、口腔の構造を掲げる。現地人材の歯科技工技術を高めるために徳島本社の隣に「歯科材料研究開発所」を建設することを決めた。

い、その歯形に合う入れ歯や差し歯を求めた高度な義歯が求められる。新興国でも所得水準の向上に伴う義歯市場の拡大が見込まれる。シケン「と意気込んでいる。」

歯のデザインをして送り返す作業だ。そのデータを基に製作するのは発注した国に拡大が見込まれる。シケン「と意気込んでいる。」

人工歯製造を手掛けるエストの開発部門の集約は次のステップに向けた一歩。島社長は「徳島から世界に売れるものを開発する」